

急拡大するスマートフォン市場— 先端技術で安全便利に

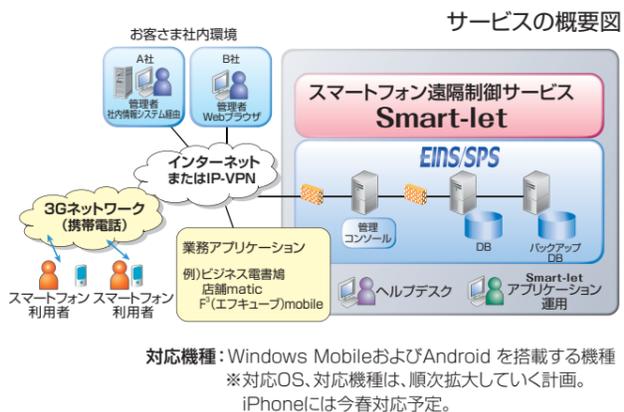
スマートフォンや可搬型のタブレット端末の利用が広がっている。インテックおよびインテックシステム研究所では、スマートフォン向けの多彩なアプリケーションを研究・開発し、その魅力や特徴を最大限に生かした、より安全で便利なスマートフォン利用サービスの提供を目指す。

業務利用も安心、スマートフォンを遠隔制御 Smart-let™ (スマートレット)

インテックとインテックシステム研究所は、スマートフォンを遠隔制御する「Smart-let™ (スマートレット)」の提供を昨年12月から始めた。紛失した際に端末を遠隔から止める「ロック」やその解除を行う「アンロック」、GPS機能を利用して位置を知らせる「位置確認」などの機能を提供。システムはインテックの堅牢なデータセンターに構築しているIT基盤「EINS/SPS」によりクラウドサービスとして提供する。

スマートフォンを紛失したり盗難にあったりした場合でも、情報漏えいや不正利用のリスクを大幅に減らすことができ、企業は安心してスマートフォンを業務に活用することができる。

ITホールディングスグループではすでにスマートフォンやタブレットPC向けの企業向けアプリケーションやサービスを提供しており、これらと連携することで、より付加価値の高い提案を行っていく。



ITホールディングスグループの 主なスマートフォン向け業務用アプリケーション

- インテック 金融機関向けCRM携帯ソリューション「F²(エフキューブ)mobile」
- ネクスウェイ 多店舗運営支援ポータル「店舗matic」
- ソラン 携帯電話向け報告業務アプリケーションサービス「ビジネス電書鳩 Re:port」等

お問い合わせ先: インテックシステム研究所 事業企画部
TEL:03-5665-5011 e-mail:smart-let-info@intec-si.co.jp

スマートフォンで動物園探検 富山市ファミリーパークで実証実験

昨秋、インテックシステム研究所 (ISI) は富山県立大学、富山市ファミリーパークと共同で、iPhoneやiPadを使った園内情報ナビゲーションの実証実験を行った。より人に優しく楽しいナビゲーションを目指したもので、参加者は実物と画面上に表示された動物たちの情報を合わせて見ながら、親子で富山市ファミリーパークを散策した。実験にはISIが開発した2つの新技術を使用した。

●イラスト地図ナビゲーションシステム

園内で配布されるイラストで描かれた地図をスマートフォンや端末に表示し、地図上に利用者の現在位置と方位をGPSからの情報を用いて表示する技術。一般的なナビゲーションシステムでは園内の建物や展示物の情報までは記載されていない。また、通常は縮尺が正確な地図でしかナビゲーション



ができないが、本システムではデフォルメされたイラスト地図でも正しく位置情報を表示できる補完技術を開発した。

●AR動植物情報提示システム

カメラを動植物に向けると、リアルタイムにその情報を表示することができる。従来のAR技術に比べ、視線方向にある必要な情報のみを正しく表示できる特徴がある。

参加者からは、「建物や動物舎の位置、方向が直感的にわかった」「動物の情報がすぐにわかり楽しかった」などの感想が聞かれた。ISIは今回検証したユーザインタフェースについての成果をもとに、AR技術やイラスト地図ナビゲーション技術をベースにしたシステムの市場への展開を検討している。

※ AR (Augmented Reality) 技術
拡張現実技術。実際に見えている現実の映像情報に、コンピュータが生成した映像やテキスト情報を付加・合成する技術。

お問い合わせ先: インテックシステム研究所 富山研究所
TEL: 076-444-8088 e-mail: info@intec-si.co.jp

インテック上海、営業開始 中国でのSI、ITサポートを強化

日系企業の中国進出が加速する中、インテックはお客さまにより充実したITサービスを提供するため、インテック武漢の上海分公司を独立させ「インテック上海」を設立した。1月から営業を開始している。アウトソーシング、ネットワーク、SIの各サービスの提供に加え、インテックのパッケージ商品を現地化して販売し、日系企業、現地中国企業の旺盛なIT需要に応える。

無錫、蘇州、杭州等を含む上海都市圏を営業対象地域とし、中国全土へはTISI上海、天津TIS海泰、北京ソランなどITホールディングスグループ各社と連携してサービスを提供していく。



概要

社名 英奈希希信息技术(上海)有限公司(インテック上海)
住所 上海市徐匯区宜山路1388号 民潤商務大廈17楼B座
電話番号 +86-21-6438-8833
従業員 65名
董事長 川浦正博(インテック取締役)
董事總經理 東野雅英(インテック海外事業部参事)

お問い合わせ先: インテック 海外事業部
TEL: (03)5665-5142 e-mail: info_kagai@intec.co.jp



中国でも、日本と同じシステム・運用保守サービス MCFrameの提供で東洋ビジネスエンジニアリングと協業

インテックと東洋ビジネスエンジニアリング(B-EN-G)は海外展開を進める製造業への基幹業務システム提供で協業した。

B-EN-Gの「MCFrame」は、中堅製造業向け基幹業務システムとして250社を超える企業に採用されているが、「海外拠点でも利用したい」との要望に応え、2009年からは多言語・多通貨機能などグローバル対応を進めた「MCFrame XA」を提供している。

また、インテックは40社を超えるお客さまへMCFrameを導入

ご挨拶

インテック上海
董事總經理 東野雅英
ひがしの まさひで



2011年1月、インテック武漢・上海分公司は「インテック上海」として営業を開始いたしました。インテックの中国事業はこれまでオフショア開発が中心でしたが、最近お客さまから「中国現地法人に導入するシステムもインテックでやってくれないか」とお声がかかることが増えてきました。

インテック上海は従来からのオフショア開発に加え、製造業向け生産管理システム「MCFrame」や現在中国語化を進めているインテックの販売管理システム「社長の右手」などで、まずは日系企業のお客さまに高品質なITサービスを提供いたします。また、早期に中国企業向けビジネスも開拓していきたいと考えています。

インテック上海は社員一丸となって中国市場へ参入してまいります。そして、お客さまをIT面から精一杯ご支援させていただき所存でございます。どうぞ末永くご愛顧くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。

お問い合わせ先: インテック I-MCF事業部
TEL:03-5665-9917 e-mail:mcf_info@intec.co.jp

パワー・アンド・IT

北陸電力と共同で設立
次世代型データセンター、富山市で今春稼働

富山市南部で建設が進められている「株式会社パワー・アンド・IT(アイティ)」のデータセンターが5月に事業を開始する。

同社はインテックと北陸電力が共同で設立したデータセンター事業会社。インテックのシステム構築力、データセンター運用技術、ネットワーク構築・運用技術と、無停電対策など北陸電力が持つ電源の信頼性や耐震性に関する知見等を活用し、両社の強みを最大限に発揮する。インテックが電力会社と共同でデータセンター事業を行うのはアット東京に次いで2例目。

データセンターは基礎免震構造を採用した地上4階建てで、サービス面積は約3,000㎡。本格的な次世代型データセンターであり、外気を利用した高効率空調、LED照明や



ITを活用したエネルギーの管理で、業界最高水準の省エネを実現する。

インテックは、当データセンターや昨年竣工したインテック万葉スクエアなど新たなデータセンターと、従来から保有する全国のデータセンターを結び、より品質の高いアウトソーシングサービスを提供する。また、全国のお客さまの災害バックアップのニーズにも対応していく。

パワー・アンド・IT ホームページ <http://www.powerandit.co.jp>

ITHDグループ

グローバル案件に向けた人材育成を強化

ITHDグループでは、グローバル案件を牽引できる人材の育成を目指した「第1回グローバル案件リーディング研修」を、昨年11月に修了した。この研修は、ITHDグループ内から受講者を募り、6月から8名の受講者が参加した。インテックからは、右記の3名が参加した。

本研修の目的は、単なる英語研修ではなく、グローバル企業とのビジネスの進め方、交渉、プレゼンテーションを含んだもの。毎週の研修の他、ブリティッシュヒルズ(福島県)での合宿も行われた。各受講者は、現在の業務に必要なスキル習得に向けて積極的に参加した。ITHDグループではますます増加するグローバル案件に向けた人材育成を今後も行っていく。



受講者のコメント

N&O事業推進部 福島 瑞之

半年間にわたる研修は非常にエキサイティングで密度が高く、そして厳しいものでした。現業と研修の両立に苦労しましたが、ITHDグループ各社から集まった仲間がいたからこそ乗り切れたと思います。今後も引き続きスキル向上に努めビジネスに生かしていきます。

ESシステム部 岸田 主税

毎週火曜日のクラスだけでなく、宿題や発表準備と、英語が常に私の脳を支配し続けていました。継続してこそ意味があり、実ビジネスに生かしてこそ意義があると思っていますので今後とも英語脳を活性化させ続けていきます。

N&Oプロダクト部 山森 雅文

海外の会社とのやり取りがあり参加しました。半年間、学生時代以上に英語にどっぷり浸かる日々でした。ある時、これまで点でしか存在しなかった英語の知識が繋がったという感覚がありました。この気持ちを絶やすことなく今後も継続していきたいです。

インテック

快速サーチャーLogReviに「自動レポート機能」
コンプライアンス、内部統制をより確実に

インテックは、ログの統合管理を実現する「快速サーチャーLogRevi(ログレビ)」に、ログを自動的に分析、報告する機能を追加し、昨年10月に提供を開始した。

これまで、設定した時刻に自動的にグラフを生成、レポートする機能はあったが、今回、内部統制やセキュリティなどの社内ルールが正しく守られているかどうかを迅速に把握したいというお客さまからの強いニーズに対応して、管理者への通知機能を大幅に強化した。

ログから自動的にレポートを作成するとともに、作成されたレポートの内容をログレビが分析し、設定した条件に抵触していた際にアラートとして管理者宛に自動通知することができるようになった。社内の状況を迅速に把握できるようになることに加え、セキュリティインシデントが発生した際にもより迅速に対応できるようになる。

お問い合わせ先: インテック ビジネスプロダクトソリューション部
TEL: (03) 5665-5140
e-mail: itps_info@intec.co.jp

インテック

Webと電話を連動して顧客接点を強化「Call クレヨン」
楽天トラベルが採用

インテックとTISは、8月から提供しているSaaS型着信管理サービス「Callノート」に加え、クラウドテレフォニー事業の第2弾として「Call クレヨン」の提供を12月から開始した。

「Call クレヨン」は、「PhoneCookie™(特許申請中)」という新たに開発した独自技術により、Webと電話から得られるそれぞれの発信・アクセス時刻、アクセス元の電話番号・URLやIDなどの情報を効果的に結びつけ、活用することで新しいビジネス価値を創造するサービス。

「Callクレヨン」を利用することにより、マーケティング情報の収集や顧客サービスの向上など様々な用途に電話とWebのトランザクション情報を活用することが可能となり、顧客接点領域におけるビジネスの可能性を上げることができる。

〈利用例〉

- 顧客の参照している画面をコールセンターで、オペレータ端末上に再現する。オペレータは顧客が電話に至った背景を把握したうえで、電話の対応ができる。
- Webで情報を閲覧し、予約・注文は電話で行った顧客にも、ショッピングポイントを付与でき、CRMの対象とすることができる。



ITHDグループは、Webを活用してお客さまにサービスを提供している企業を中心に「Call クレヨン」を販売し、3年で30億円の売上を目指す。また、CRM関連ベンダー、CTIベンダー、コンタクトセンターBPO業者等との連携も検討しており、今後のアライアンスも視野に入れたマーケティング活動を展開する予定である。なお、楽天トラベルのコールセンターへの導入がすでに完了し、利用が開始された。

お問い合わせ先: インテック N&O事業推進部
TEL: 045-451-2398 e-mail: net_info@intec.co.jp

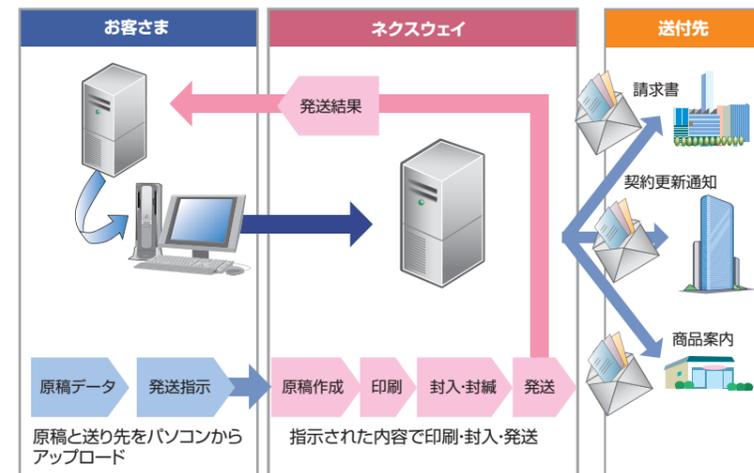
ネクスウェイ

「e-オンデマンド便サービス」に新機能
請求書や契約更新案内などの発送にも対応

ネクスウェイは、封書やはがきなど、文書の印刷～封入～発送ができるドキュメントデリバリーサービス「e-オンデマンド便サービス」に、請求書など帳票類を発送する新機能を追加し、昨年11月より提供を開始した。

この機能により、利用者は送り先の住所を含むCSV形式の帳票データをWEB上にアップロードするだけで、多種多様な文書を翌営業日に発送することが可能になった。従来は手間とコストがかかっていたダイレクトメールや商品案内をはじめ、請求書、納品書、支払通知書、ソフトウェアなどのID/パスワード通知、保守契約の更新案内などの発送業務効率化とコスト削減が実現できる。

ネクスウェイは今後、既存の帳票ソリューション（FNX e-帳票FAXサービス）や他社SaaSサービスと連携するなど、お客さまの様々なニーズに合わせてe-オンデマンド便サービスをさらに拡張させる予定である。



お問い合わせ先：ネクスウェイ TEL:0120-341890 e-mail:clp@nexway.co.jp
e-オンデマンド便サービスについて <http://www.nexway.co.jp/promotion/on3/top.html>

高志インテック

ヒューマ

高志インテックとヒューマが合併

北陸地区におけるグループの体制強化を図るため、高志インテックとヒューマが1月1日付で合併した。高志インテックが存続会社となりヒューマの事業を「ヒューマ」という組織名を残し承継する。高志インテックはソフトウェアの開発、コンピュータシステムの運用・管理、システムインテグレーション、リース関連事業を行っており、これにヒューマの一般労働者派遣および有料職業紹介事業が加わる。この5事業の相乗効果を発揮し、お客さまにより充実したサービスを提供していく。

インテック

「デジタルペンASPサービス」の
提供をスタート
手書き業務を手間なくデジタル化

インテックは昨年10月、デジタルペンを用いたシステムをASPで提供する「デジタルペンASPサービス」の提供を開始した。

デジタルペンを使うと、専用紙に万年筆のように手書きするだけで、その内容をデータ化することができる。システム化が困難な手書き業務に用いることで、作業形態を変えずに手書きデータを業務システムと連携できるため、ビジネスのスピード向上にもつながる。

デジタルペンを用いたシステム構築には、デジタルペンに加えて文書管理システムや専用紙等が必要だが、インテックはこれらを一括してASPで提供する。データはインテックのデータセンターでお預かりし、運用保守もインテックがアウトソーシングで行うため、お客さまは運用保守に手間をかける必要がない。また、初期投資を抑えて安価な月額料金にて利用を始めることができる。

お問い合わせ先：インテック 社会基盤営業部
TEL:03-5665-9962
e-mail:341_pen@intec.co.jp

■ 高志インテックの概要

代表者 代表取締役社長 川上 留嗣
代表取締役専務 稲田 恵子
本社 富山市奥田町9番32号
ヒューマ 富山市牛島新町5番5号
(人材派遣) タワー111 1F
株主構成 インテック100%

クラウド・スコープ・テクノロジーズ

クラウド環境の監視・管理ツール Moon Walker Version2.1をリリース
(世界初ライブマイグレーションを自動監視し、警報通知)

クラウド・スコープ・テクノロジーズ(CST)は昨年11月、クラウド環境をビジュアルに監視・管理する『Moon Walker Version2.1』をリリースした。今回の機能追加では、システムを停止することなく、仮想サーバを他の物理サーバ上へ移動させるライブマイグレーションに対して、自動でそれを検知し、監視する機能を世界で初めて実現した。これにより、本格的なクラウド時代に必要とされる仮想環境管理と低

コストサービスの実現に柔軟に対応する。運用監視の現場では、サーバやサービスを管理するために特別なツールが複数活用されているのが実態。Moon Walkerは管理対象(サーバとネットワーク等)をお客さまの要望に合わせて選択することができ、より簡単に、かつコストをかけずに管理することを目指している。

詳細について：<http://www.cloud-scope.com/index.html>

情報通信研究機構(NICT)の研究開発を受託

CSTはNICTの平成22年度「高度通信・放送研究開発委託研究」において、光統合ネットワークの管理制御およびノード構成技術に関する研究開発を受託した。独自のテクノロジーを利用し「アプリケーション指向型光パケット・パス

管理システムの研究開発」を行う。受託期間は、平成26年3月末まで。

お問い合わせ先：クラウド・スコープ・テクノロジーズ 営業部
TEL:03-3403-8321 e-mail:cloud-info@cloud-scope.com

インテックシステム研究所

Twitterで高齢者の社会参加を支援
ユニバーサルデザインを取り入れて開発

各地のインターネット市民塾運営者等で構成する「NPO法人地域学習プラットフォーム研究会」は、Twitterを使った高齢者支援事業をスタートさせた。富山市の推薦を受けて総務省の「ICTふるさと元気事業」に採択された。

情報社会から取り残されがちな高齢者が「情報」や「人」とのつながりを保ち、社会参加することを目指し、情報サポーターが高齢者をサポートする活動を11月から行っている。高齢者にiPhoneやiPadを貸し出し、Twitterで日々の暮らしの中の「つぶやき」を発信してもらい、情報サポーターが「うなずく」傾聴活動、また、声かけや地域の情報を伝える活動を通して地域参加を促す。

Twitterを簡単に使うためのソフトはユニバーサルデザインを取り入れて独自に開発した。インテックシステム研究所のユーザインターフェイス研究に加え、ユニバーサルデザインの専門家である(株)ユーディット(関根千佳社長)の協力を得て、高齢者がICT機器を使う際の困難を調査し、設計した。「思ったより簡単に使えた」という感想も聞かれ、文字入力

が苦手な高齢者も比較的簡単に「つぶやき」を発信できるようになった。また、声や写真、居場所などの情報を組み合わせることができることも大きな特徴である。

また、本事業ではさらに、イベントの情報やインターネット市民塾参加者の活動情報を家庭のパソコンやiPad、街なかに設置したデジタルサイネージ(電子看板)へ配信している。この表示システムもインテックシステム研究所が中心となり開発した。

インテックシステム研究所 杉本圭優 研究員

高齢者が情報化の恩恵から疎外されるのではなく、より豊かに便利に生活できる社会(情報バリアフリー)の実現が求められています。今回の実践ノウハウを生かし、高齢者の情報バリアフリーを実現するICTの研究・開発に取り組んでいきたいと考えています。



お問い合わせ先：インテックシステム研究所 富山研究所 TEL:076-444-8088